

# 立正大学ACAP講座を実施 2011年度後期授業 4コマを担当して



今年度の立正大学でのACAP講座は、経営学部の後期授業「経営総合特論C」の中で4コマを担当し、12月10日(土)に終了いたしました。授業は、企業の管理職・専門職の方を講師として招へいし、企業経営の実態を講義内容としています。

今年度は講師選定にあたり、担当教員の吉田健太郎講師が女性管理職の登壇を希望されたことから、4名の講師のうち女性管理職3名が講師を担当いたしました。

講義の内容は、消費者対応や顧客満足度の向上への取り組みなどをベースに、消費者起点の企業経営について解説いたしました。

約171名の履修者からは、「企業経営の現状が理解できた」、「消費者対応の最前線の取り組みが分かった」、「業種や企業によつての違いを知ることができた」となどの声をいただき、学生にとつても、ACAPにとつても貴重な機会になりました。

吉田健太郎講師はACAP講座について、「講義は経営者幹部の現場での生の声をお伝えいただくもので、まさに企業は現代社会でどのように変化し生き続けようと努力しているのか、そこに関わる企業と企業で働く人たちの意識を学生たちに肌感覚で感じてもらえることができた絶好の機会となりました。このような機会を賜りましたことに深く感謝する次第です」と述べられ、消費者啓発委員会では、来年度も実施の方向で検討しています。また、対象が学生であることから、授業テーマである企業経営論に留まらず、若年層への消費者啓発の要素を講義内容に組み入れ、啓発活動をより積極的に展開していきたいと考えています。

消費者啓発委員・川島百合子(ホメオスタイル)